

『故郷と異郷の対話・連帯詩歌集』——大地の基底にある「原故郷」に立ち還り  
「地球人」の連帯を模索する『公募趣意書

出版内容＝「故郷」と「異郷」の対立の根底にある「原故郷」に立

ち還り、「対話」から「平和」と「連帯」を、「地球人」の観点から詩歌を通して試みて欲しい。

A5判、約三〇〇／三五〇頁 本体価格二〇〇円＋税

発行日＝二〇二六年八月発行予定

編集者＝鈴木比佐雄、座馬寛彦、鈴木光影、羽島貝

発行所＝株式会社コールサック社

公募＝二五〇名の詩・短歌・俳句・エッセイを公募します。作品と承諾書をお送り下さい。既発表・未発表を問いません。趣意書はコールサック社HPからダウンロード可能です。http://www.coalsack.com/

参加費＝一頁は詩四十行（一行二十五字）・短歌十首・俳句二十句・エッセイ一、〇〇〇字で一万円、二冊配布。二頁は倍の作品数や文字数で二万円、四冊配布。校正紙が届きましたら、コールサック社の振替用紙でお振込みをお願いします。

しめきり＝二〇二六年五月末（著者校正一回あり）

原稿送付先＝〒一七三・〇〇〇四

東京都板橋区板橋二・六三・四・二〇九

データ原稿の方＝<msuzuki@coal-sack.com>（鈴木光影）

までメール送信お願いします。

【よびかけ文】科学技術の発達によって人間の「生活世界」は過度の欲望の刺激を受け、他の地球の生きものたちの生活圏や生態系を破壊し続けて、気候変動という形で地球の危機を誰もが感ずる時代状況になっている。人類はどうしたら他の生きものたちと共生する「地球人」になれるのだろうか。今から九十年ほど前の一九三四年に、現象学を提唱し二十世紀の哲学に大きな影響を与えたフッサールは、ナチスが政権を握りナショナリズムを煽り、周りの「異郷」である他国を侵略しようとする状況下の中で、ユダヤ人であるゆえに大学を追われた。その最中に「ウイーン講演」や論文『コペルニクス説の転覆』の中で、身体と大地の関係を問いながらも自国中心主義である故郷世界（Heimwelt）と異郷世界（Fremdwelt）の対立によって繰り返されている悲劇を回避するために、その根底に「原初的故郷」や「原故郷」（Uheimat）があることを指摘した。私はカントの「永遠平和」とフッサールの「原故郷」という考えは「ヨーロッパ」に限定しなければ、平和を「生成」していく観点からとても類縁性があり、今日的に人類の課題を言い当てていると思われる。そして未来にむけて故郷世界と異郷世界の対話を促し「連帯」を「生成」させていく理念や概念になりうるのではないか。

「宮沢賢治『春と修羅』第二集の中にトシの死を冷静に受け止め

キトリ線（参加詩篇と共にご郵送ください）データ原稿をお持ちの方は<msuzuki@coal-sack.com>までメール送信をお願いします。

『故郷と異郷の対話・連帯詩歌集』——大地の基底にある「原故郷」に立ち還り「地球人」の連帯を模索する』参加・収録承諾書

応募する作品の題名	
氏名（筆名）	
読み仮名	
生年（西暦）	年
生まれた都道府県名	

以上の略歴と同封の詩・短歌・俳句・エッセイにて、『故郷と異郷の対話・連帯詩歌集』に立ち還り「地球人」の連帯を模索する』

るようになった詩「薔露青」が収録されている。詩「薔露青」の「薔露」とは「薔」（ラッキョウ）の細く長い葉の上に乗った露のことを指していて、古来より漢詩で人の命の儚さを喩えていた。それに賢治は「青」を加えて、「薔露青」とした独創的な言葉は、「薔」の葉の上に乗った露の一滴によって葉の青さが鮮烈に印象付けられる。「声のい、製糸場の工女たちが／わたくしをあざけるやうに歌って行けば／そのなかにはわたくしの亡くなった妹の声が／たしかに二つも入っている」。このように賢治は「製糸場の工女たち」の歌声の中に「亡くなった妹の声」を聞き取り、今もトシの存在は他者に生まれ替わって生き続けていることに気付かされて励まされたのだろう。「故郷と異郷の対話・連帯」とは、「異郷」の概念を仮に広げて「異次元の異郷」と解釈すれば、この賢治の鎮魂詩も該当すると私には思われた。それに相応しいその他の詩篇を挙げたい。浪江町に帰還した鈴木正一氏の詩「棄民の郷愁」の中の最終連の「ふるさとのど真ん中で／郷愁に駆られるとは……」という二行は、避難を繰り返しやつと故郷に戻ってみれば、なぜか故郷を喪失した痛切な絶望感が記されている。また石垣島の八重洋一郎氏の詩「言葉」は、「辺境のそのまた辺境 遠流の僻地における／過去 現在 未来 歴史 世界の定点観測は強く／明視する…」から始まる。八重氏の詩の発想には、「故郷」から「異郷」を見るのではなく、「異郷」から「故郷」を検証する批評意識が濃厚に感じられる。

次に俳句や短歌を紹介したい。マブソン青眼氏の俳句へ山のおく縄文ビーンナスそして雪。堀田季何氏の俳句へ水晶の夜映寫機は砕けたか。新城貞夫氏の短歌へにつぼんの心を変える企てにうたのありかをわが探り来しへ国家より棄てられてある幸運をなんで返上せねばならぬか。喜納勝代氏の短歌へいくたびか海の平和を祈り来し漁女の空にいわし雲ありへ民族の差異を認めて平和の地望みて握手す冬の那覇空港。

このような詩歌を通して「故郷と異郷の対話・連帯詩歌集——大地の基底にある「原故郷」に立ち還り他者と連帯を模索する」という考え方で、詩歌を公募する。左記に具体的な個別のテーマの例を挙げたい。

①「故郷」が「異郷」から影響を与えられた影響を与えている相互の実例。②人間の経済活動に起因して「故郷」の自然の生態系がいかに変容しつつあるか。③「故郷」と「異郷」が「対話」を通して「連帯」を模索する試み。④東日本大震災・東電福島第一原発事故から十五年の「故郷」の変容。⑤熊本地震・能登半島地震などの被災経験を語り継ぐ。⑥原発の再稼働、新規原発建設、原潜の建造、核融合などは経済優先で問題があるのではないかという問いかけなど。（鈴木比佐雄 記）

〒	〒
現住所（郵便番号・都道府県名からお願いします）※	
代表著書（計二冊までとさせていただきます）	TEL（ ）
所属誌・団体名（計二つまでとさせていただきます）	

※現住所は都道府県名まで著者紹介欄に掲載します。校正紙をお送りしますので、すべてご記入ください。

印
---